

2026年9月期 第2四半期 決算説明資料

2026年5月

フィンテック グローバル株式会社

(東証スタンダード市場 : 8789)

<https://www.fgi.co.jp/>

目次

総括	P. 2
連結業績予想の修正	P. 3
連結業績概況	P. 4
ムーミン物語株式の一部譲渡	P. 6
セグメント別業績サマリー	P. 8
投資銀行	P.10
投資銀行－航空機部門 セグメント	P.18
パブリックサポートサービス	P.19
エンタテインメント・サービス	P.20
連結財務諸表（BS,PL,CF）	P.22
Appendix	P.25
連結経営指標等の推移	
連結従業員数の推移（四半期、セグメント別）	
会社概要	
FGIグループ会社・セグメント	

ムーミン物語株式の一部譲渡等を踏まえ、通期業績予想を修正

●ムーミン物語株式の一部を無償譲渡、ムーミン物語等を連結除外

ムーミン物語株式の譲渡に伴い、特別利益1,556百万円、特別損失463百万円を計上
ムーミンバレーパークに係る資産、負債をオフバランス化

●通期業績予想を修正

ムーミン物語の連結除外などにより、売上高は期初予想を14.8%下回ると見込むが、
投資銀行セグメントの好調により、営業利益・経常利益は据え置き
最終利益は、特別損益の影響や法人税等の減少により期初予想を70.4%上回る見通し

●2026年9月期第2四半期は増収増益

大型案件の投資回収や、トラックオペリースのアレンジ好調により増収増益

【投資銀行】

事業承継案件へのプライベートエクイティ（PE）投資は、大型案件を投資回収。
トラックオペリースは、アレンジなどの売上増加。
この結果、投資銀行セグメントは増収増益。

【投資銀行－航空機部門】

技術サービスの低調により減収減益。航空機オペリース売上は増加。

【パブリックサポートサービス】

行政計画の策定案件等の売上増加により増収となるも、公共施設マネジメントのアウトソーシング受託に
向けた人材採用や、太陽光発電所開発の先行投資により損益は悪化。

【エンタテインメント・サービス】

イベント強化等による来園者の増加に加え、客単価上昇により増収となるも、費用増により減益。

連結業績予想の修正 (2026年5月12日公表)

(単位: 百万円)

	2026/9期 期初予想	2026/5/12 修正予想	増減額	増減率	2026/9期 Q2累計実績	Q2進捗率 対修正予想	(参考) 前期実績
売上高	18,200	15,500	△2,700	△ 14.8%	8,011	51.7%	14,432
営業利益	4,200	4,200	0	0%	2,553	60.8%	3,406
経常利益	4,000	4,000	0	0%	2,358	59.0%	3,242
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	2,700	4,600	+1,900	+70.4%	3,192	69.4%	2,121

売上高

ムーミン物語の連結除外などにより、期初予想を14.8%下回るが、主力の事業承継案件へのPE投資、トラックオペレーティングリースは好調

事業承継案件へのPE投資・・・前期組成の大型案件が投資回収に至る。
第3四半期に入ってから、新たに大型案件を組成。
当期中の投資回収により、期初計画の達成を見込む。

トラックオペリースのアレンジ等・ファンド組成・商品販売は期初計画を上回るペースで推移。
航空技術サービス・・・機体検査による売上の減少傾向が続く。
航空機のオペリース・・・案件組成と機体売却が期初計画を下回る。
不動産小口化商品・・・令和8年度税制改正大綱を受け、新たな商品組成を見合わせ。
エンタテインメント・サービス・・・ムーミン物語を連結除外し、同社業績をQ3から取り込まず。

営業利益・経常利益

投資銀行セグメントの好調により、予想値は据え置き

連結除外した子会社の利益影響と、売上高が計画未達見込みである一部事業の利益影響は限定的。
一方で収益性の高いトラックオペリースのアレンジ等の売上増を見込むことから、予想値は据え置き。

親会社株主に帰属する 当期純利益

最終利益は期初予想を70.4%上回る見込み

ムーミン物語株式の譲渡などに伴い、特別利益1,556百万円、特別損失463百万円を計上。
当該株式譲渡などに伴う法人税等の減少を見込む。

連結業績概況

(単位：百万円)

	2025/9期 第2四半期累計	2026/9期 第2四半期累計	増減額	増減率
売上高	6,797	8,011	+1,214	+17.9%
売上総利益	4,294	5,606	+1,312	+30.6%
営業利益	1,759	2,553	+793	+45.1%
経常利益	1,711	2,358	+646	+37.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,291	3,192	+1,901	+147.3%
償却前営業利益	1,997	2,849	+852	+42.7%
EPS(円)	6.60	16.61	+10.01	—
ROE (年換算)	26.2%	* 52.1%	+25.9 pt	—

償却前営業利益： 営業利益+（売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費）

ROE（年換算）： 親会社株主に帰属する中間純利益を2倍して算出

* 親会社株主に帰属する中間純利益から特別損益を控除して算出した場合、34.3%となる。

売上高

事業承継案件へのPE投資、トラックオペリースのアレンジ・ファンド管理、エンタテインメント・サービスの売上が伸び、17.9%の増収。

売上総利益

粗利率の高いPE投資やトラックオペリースに関連する売上が増加して30.6%の増益。

営業利益

販管費は20.5%増の3,053百万円となったものの、売上総利益の増加が吸収して45.1%の増益。

親会社株主に帰属する 中間純利益

ムーミン物語株式の譲渡に伴い、特別利益、特別損失を計上し、147.3%の増益。

- ・ 特別利益 固定資産売却益 1,556百万円
- ・ 特別損失 関係会社株式売却損 263百万円、貸倒引当金繰入額 200百万円

四半期連結業績推移

(単位：百万円)

	2025/9期						2026/9期			前Q2比 増減額 (増減率)	前Q2 累計比 増減額 (増減率)
	Q1	Q2	Q2累計	Q3	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q2累計		
売上高	3,876	2,920	6,797	3,561	4,074	14,432	4,237	3,773	8,011	853 (29.2%)	1,214 (17.9%)
売上総利益	2,436	1,857	4,294	2,487	2,086	8,869	2,994	2,612	5,606	754 (40.6%)	1,312 (30.6%)
営業利益	1,211	548	1,759	1,102	543	3,406	1,449	1,104	2,553	555 (101.2%)	793 (45.1%)
経常利益	1,153	558	1,711	1,076	454	3,242	1,333	1,024	2,358	466 (83.6%)	646 (37.8%)
親会社株主に帰属する 中間（当期）純利益	851	439	1,291	306	524	2,121	1,007	2,185	3,192	1,745 (397.2%)	1,901 (147.3%)
償却前営業利益	1,325	671	1,997	1,225	691	3,913	1,594	1,254	2,849	583 (86.9%)	852 (42.7%)

* 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

ムーミン物語株式の一部譲渡

ムーミン物語株式の一部を無償譲渡、連結除外

2026年3月26日、当社及びファンド（子会社）が保有するムーミン物語株式の一部を、同社の自己株式取得などにより無償譲渡。当社の議決権比率は14.98%に低下。

株式譲渡前後のムーミン物語の株主構成（括弧内は議決権比率）

譲渡前	譲渡株式数 17,069株	譲渡後
FGI 17,651株* (84.6%) *ファンド（子会社）保有株式数を 含む その他の株主 3,203株 (15.4%)	ムーミン物語 16,969株 (自己株式の取得) Moomin Characters 50株 R&B Licensing 50株	FGIが引き続き筆頭株主 FGI 582株 (14.98%) ムーミン物語 16,969株 (—) その他の株主 3,303株 (85.0%)

今後の「メッツァ」への関わり方

ムーミン物語及びメッツァビレッジ（MV）の価値向上を図り、将来的なMV不動産流動化につなげる

- PE事業の一環として、ムーミン物語の企業価値向上を推進
- メッツァ全体のハード・ソフト両面での大規模なバリューアップを推進

【ハード面での大規模開発の推進】

- MVでは10数億円規模の設備投資を伴う、宿泊・温泉施設等の追加開発を推進。2027年中の開業を目指す。
- 2026年1月、MVに隣接する不動産を取得。当該地も含め、エリア一体でのバリューアップ施策を検討。

【ソフト面の強化】

- 北欧文化に触れつつ、自然・地域連携・チャリティーを織り交ぜ、特別な体験価値の更なる創出。
- 約16万人の「メッツァ公式LINE」会員基盤を活用した、オウンドメディア「metsä media」の情報発信によりファンコミュニティを拡大。

ムーミンバレーパークに係る資産、負債をオフバランス化

- ・有形固定資産44億円、有利子負債56億円（2025年12月末現在）などをオフバランス化
- ・資産効率が高まり、有形固定資産等に対する減損リスク低減
- ・有利子負債の減少により、成長戦略実行を加速するための借入余力を創出

連結貸借対照表

2025年12月末（Q1末）

総資産 294億円	負債・純資産
流動資産 178億円	負債 169億円
有形固定資産 95億円	有利子負債 139億円
この内ムーミン バレーパークの資産は 44億円	この内ムーミン バレーパークに係る 有利子負債は 56億円
無形固定資産、 投資その他の資産20億円	純資産 124億円

2026年3月末（当Q2末）

総資産 269億円	負債・純資産
流動資産 192億円	負債 123億円
有形固定資産 52億円	有利子負債94億円
無形固定資産、 投資その他の資産25億円	純資産 145億円

総資産8.4%減
自己資本比率
11.9pt上昇、50.6%に

セグメント別業績サマリー — 1

Q2累計の投資銀行の売上高は28.5%増、セグメント利益は59.8%増

(単位：百万円)

報告セグメント	科目	2025/9期						2026/9期			前Q2比	前Q2累計比
		Q1	Q2	Q2累計	Q3	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q2累計		
投資銀行	売上高	2,297	1,519	3,817	2,268	1,671	7,757	2,476	2,427	4,903	908	1,086
	売上総利益	1,761	1,329	3,090	1,973	1,383	6,446	2,273	2,198	4,472	869	1,381
	セグメント利益	1,344	765	2,110	1,468	803	4,382	1,714	1,658	3,372	892	1,261
投資銀行－航空機部門	売上高	696	798	1,494	674	1,668	3,837	729	655	1,384	△142	△110
	売上総利益	315	376	691	292	484	1,468	340	278	619	△97	△72
	セグメント利益	54	93	147	8	217	373	47	0	48	△92	△99
パブリックサポートサービス	売上高	125	123	249	84	168	502	156	160	316	36	67
	売上総利益	74	71	146	60	131	338	99	89	189	17	42
	セグメント利益	△8	△9	△18	△41	6	△54	△84	△107	△192	△97	△174
エンタテインメント・サービス	売上高	863	604	1,467	613	777	2,859	1,055	669	1,725	65	257
	売上総利益	338	140	478	179	233	891	393	115	508	△24	30
	セグメント利益	159	△61	97	△39	△29	29	158	△99	58	△37	△39
調整額 (セグメント間取引消去 又は全社費用)	売上高	△106	△125	△232	△79	△212	△523	△180	△138	△318	△13	△86
	売上総利益	△52	△59	△112	△18	△145	△276	△111	△70	△182	△10	△70
	セグメント利益	△339	△238	△577	△293	△453	△1,325	△386	△347	△733	△109	△155
連結P L計上額	売上高	3,876	2,920	6,797	3,561	4,074	14,432	4,237	3,773	8,011	853	1,214
	売上総利益	2,436	1,857	4,294	2,487	2,086	8,869	2,994	2,612	5,606	754	1,312
	営業利益	1,211	548	1,759	1,102	543	3,406	1,449	1,104	2,553	555	793

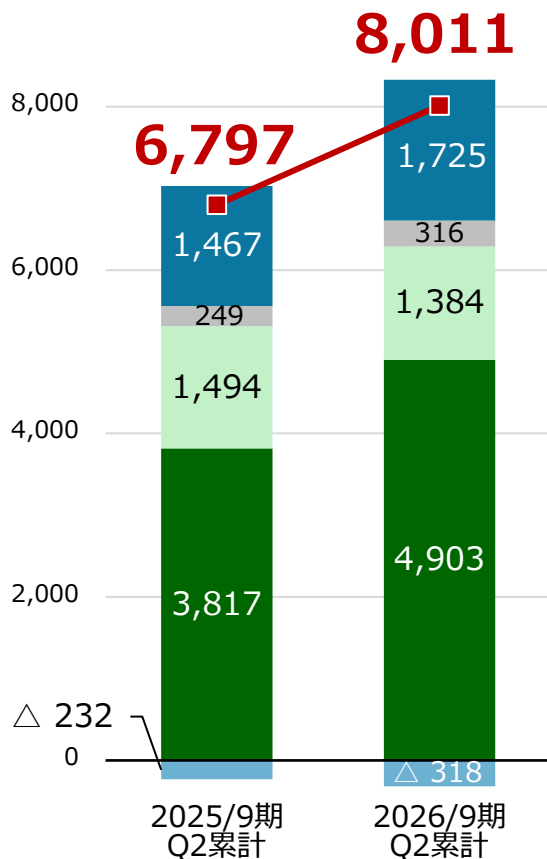
- ・ 2026/9期よりセグメントを変更しておりますが、2025/9期のセグメント情報は、変更後の区分方法で記載しています。
- ・ 各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- ・ 調整額(セグメント利益)(2026年9月期Q2累計は△733百万円)には、セグメント間取引消去(2026年9月期Q2累計は137百万円)及び報告セグメントに配分していない全社費用(2026年9月期Q2累計は△871百万円)を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

セグメント別業績サマリー - 2

売上高

(百万円)

10,000

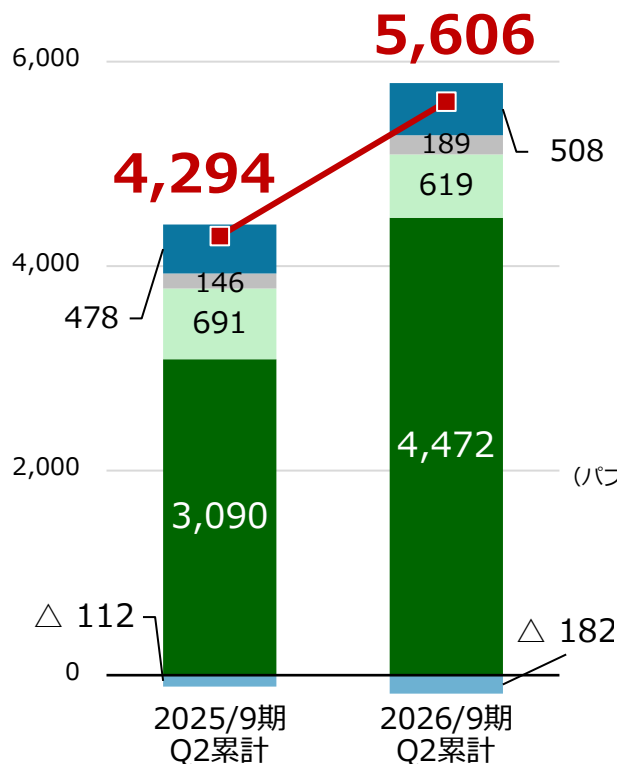


1,214百万円増 (17.9%増)

売上総利益

(百万円)

8,000

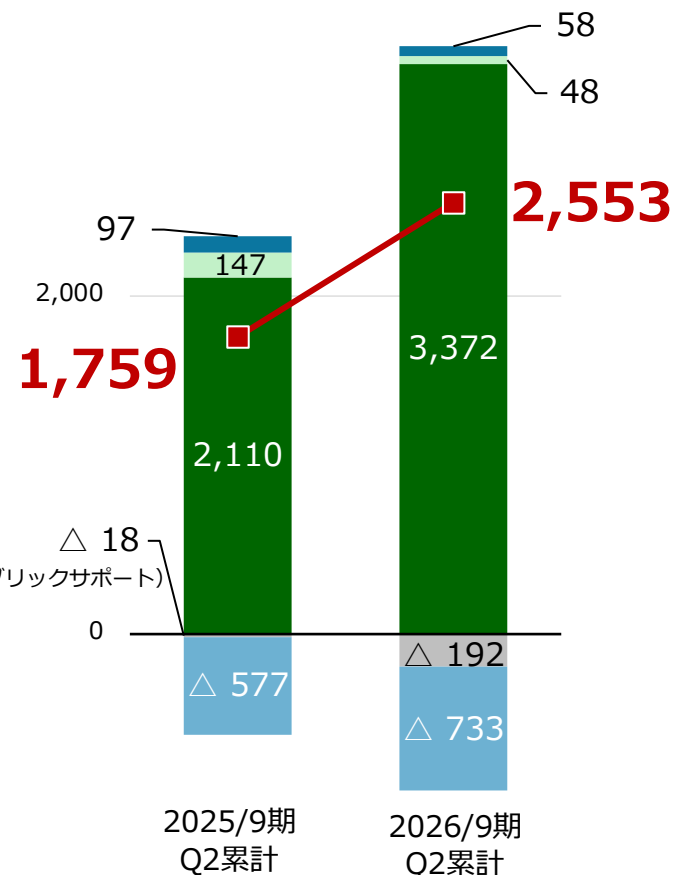


1,312百万円増 (30.6%増)

営業利益

(百万円)

4,000



793百万円増 (45.1%増)

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

投資銀行

投資銀行-航空機部門

パブリックサポートサービス

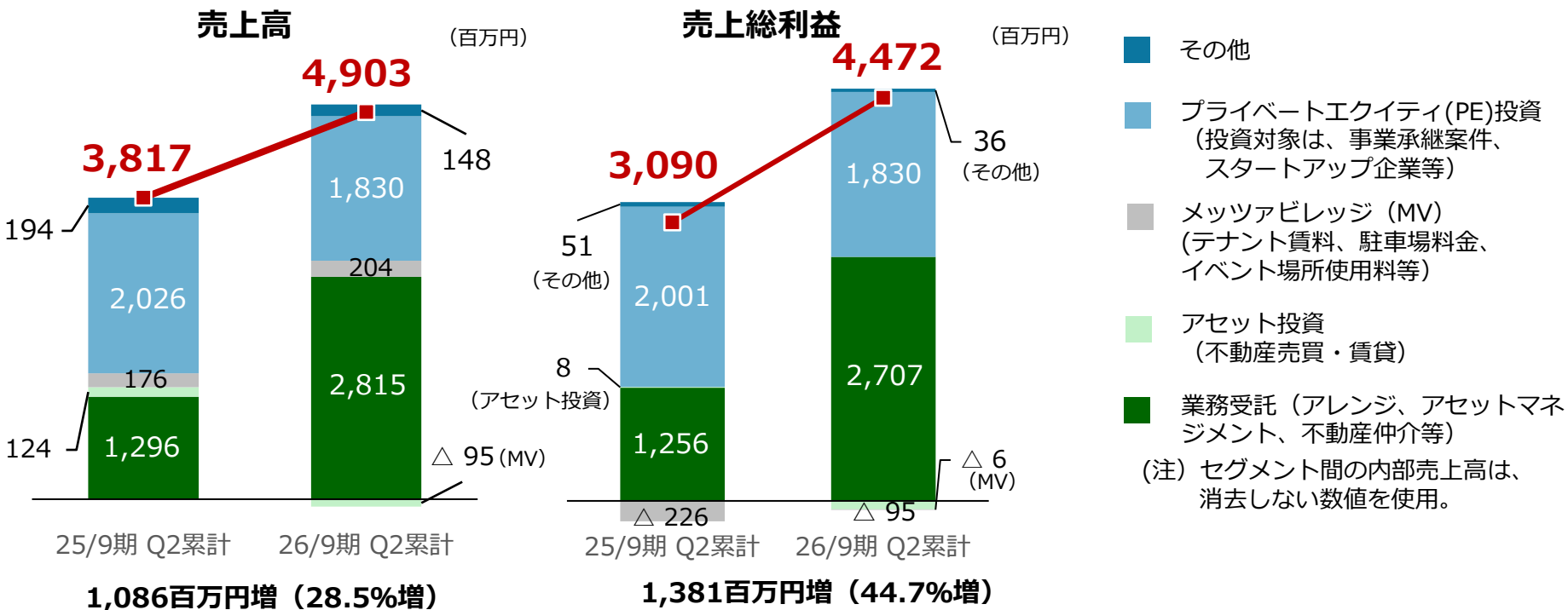
エンタテインメント・サービス

全社費用または取引消去

投資銀行 — 業務別売上高、売上総利益

大型案件の投資回収や、トラックオペリースのアレンジ好調により増収増益

- **PE投資** 大型の事業承継案件のほか、小規模案件の投資回収もあり、高水準の収益を維持。
- **業務受託** 大型の事業承継案件による業務受託収益に加え、トラックオペリースのアレンジ等の売上が前年同期の2倍超となったことにより、売上高は前年同期比117%増、売上総利益は前年同期比115%増となる。
- **アセット投資** 不動産小口化商品の3号案件は25年10月、4号案件は26年4月に完売し、全案件が完売。ファンド決算の取込は本分配後としたため当四半期に取り込まない一方で、4号案件（25年9月申込開始）が初期の組成費用を計上したファンド決算を取り込んだため、マイナスの売上となる。（4号案件の商品組成時の業務受託売上は、前期に計上。）
- **MV** 隣接不動産の取得に伴う賃貸収益や、来園者増加による駐車場収入等が伸長。また、グループ会社に対する各種施設の賃貸による売上が増加。前年同期に計上した一部施設改装に伴う除去損200百万円の影響がなくなり、損益改善。

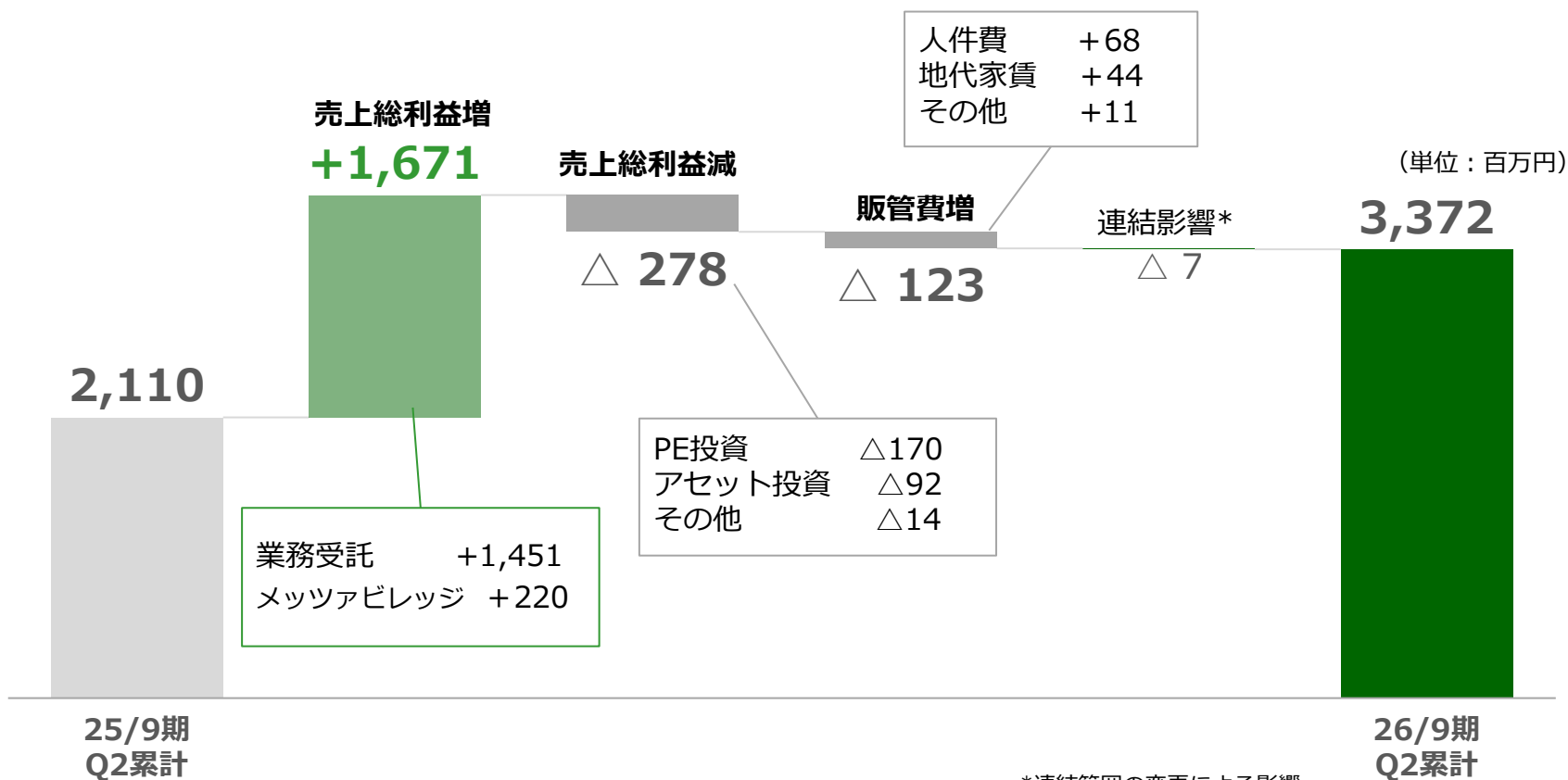


投資銀行 – セグメント利益

販管費が前年同期比12.3%増加したものの、売上総利益の増加が吸収
セグメント利益は59.8%増

(販管費)

- ・ 給与水準の引き上げ（2025年4月～）や人員増強により人件費が増加。
- ・ オフィス増床（2025年10月）により地代家賃が増加。



*連結範囲の変更による影響

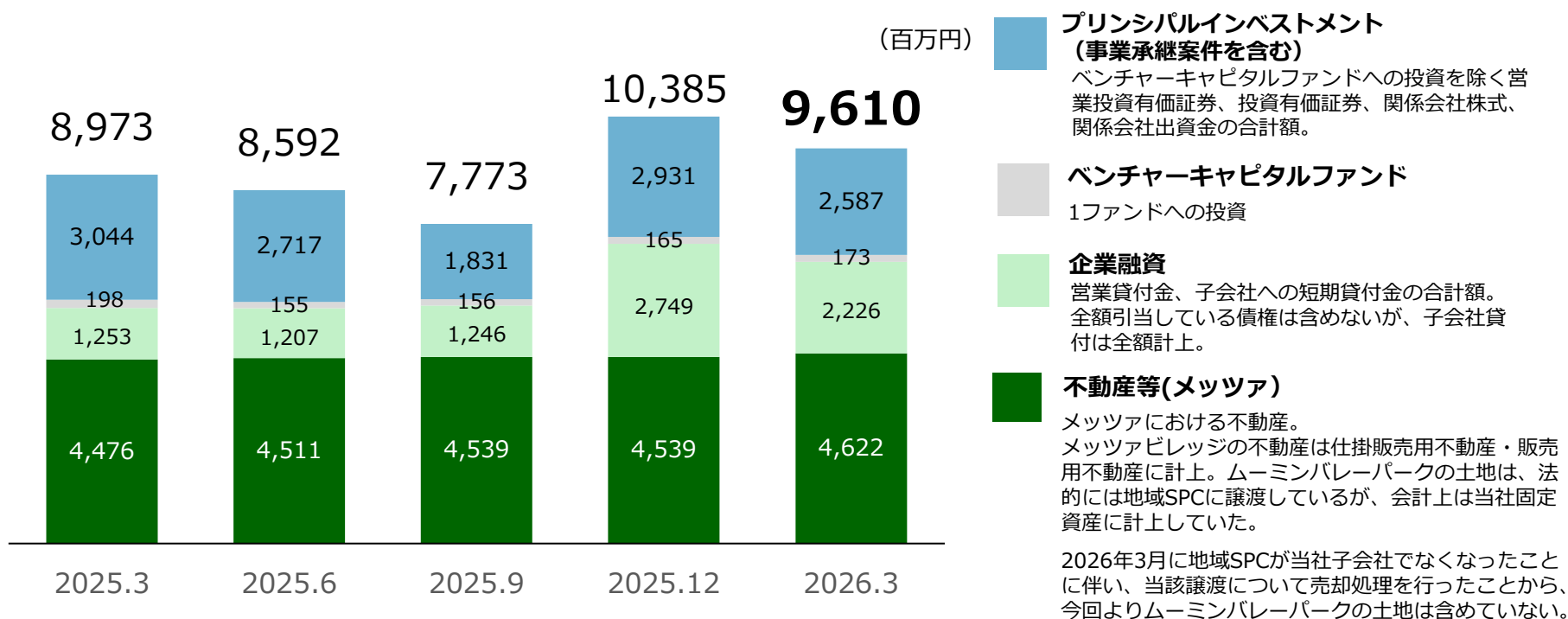
投資銀行 — 投融資残高

投融資残高は、回収が進み、第1四半期末比7.5%減

〔2026年9月期第2四半期の変動要因〕

- プリンシパルインベストメント・次頁参照。
- 企業融資 営業貸付金の回収が進み減少。
- 不動産等(メツア) . . . ムーミンバレーパーク不動産が売却処理されたが、メツアビレッジの隣接不動産取得やムーミンバレーパークの「エンマの劇場」に全天候型テントをリースしたことにより増加。

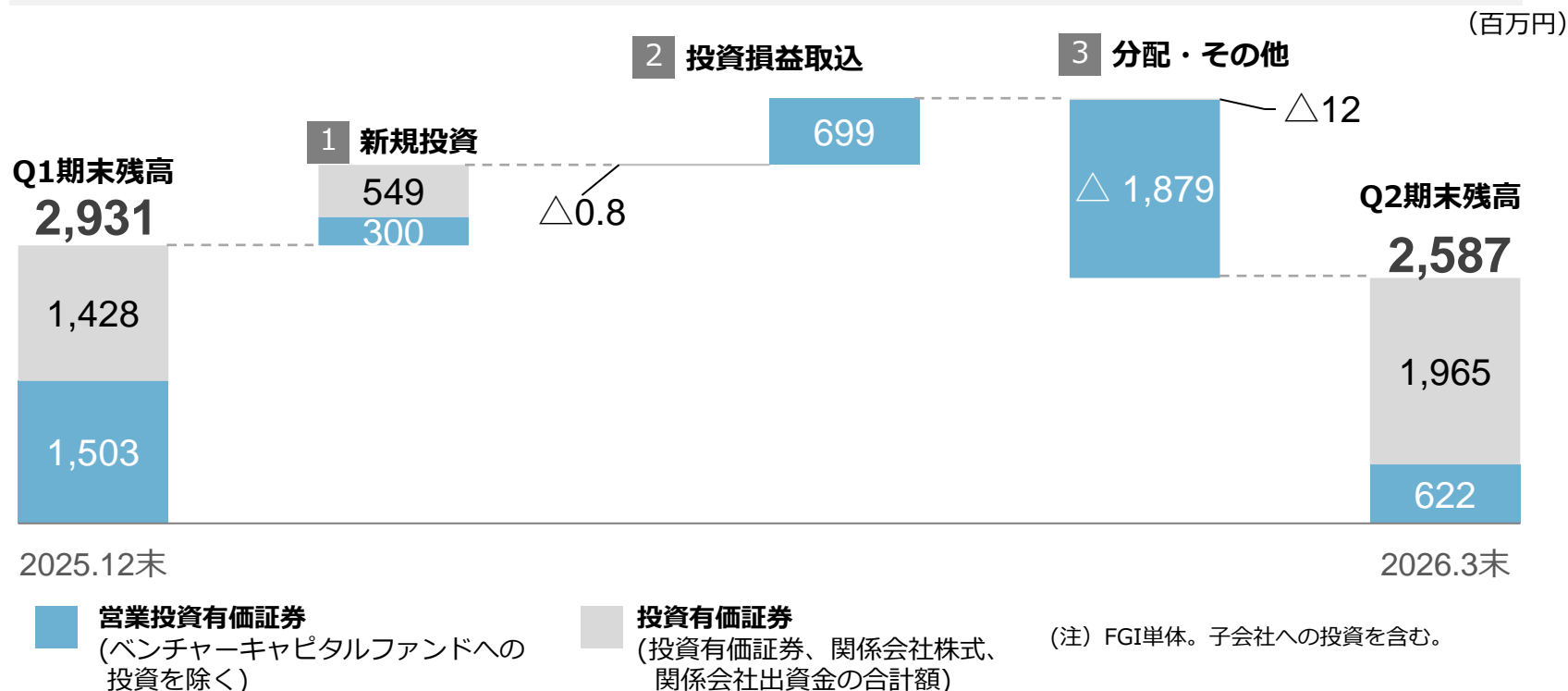
投融資残高 (FGI単体。子会社への投融資を含む。)



投資銀行 — 投資残高 (プリンシパルインベストメントの増減内訳)

事業承継案件のPEファンドにおける投資回収が進む 分配金受領により、投資残高は前期末比11.7%減少

- 1 事業承継案件3件に投資実行し、営業投資有価証券が増加。
信託会社の株式を取得、子会社化。関係会社株式が増加。
- 2 前期組成の大型案件を含む、複数の事業承継案件の投資回収による収益取込により増加。
- 3 事業承継案件の分配金を受領。



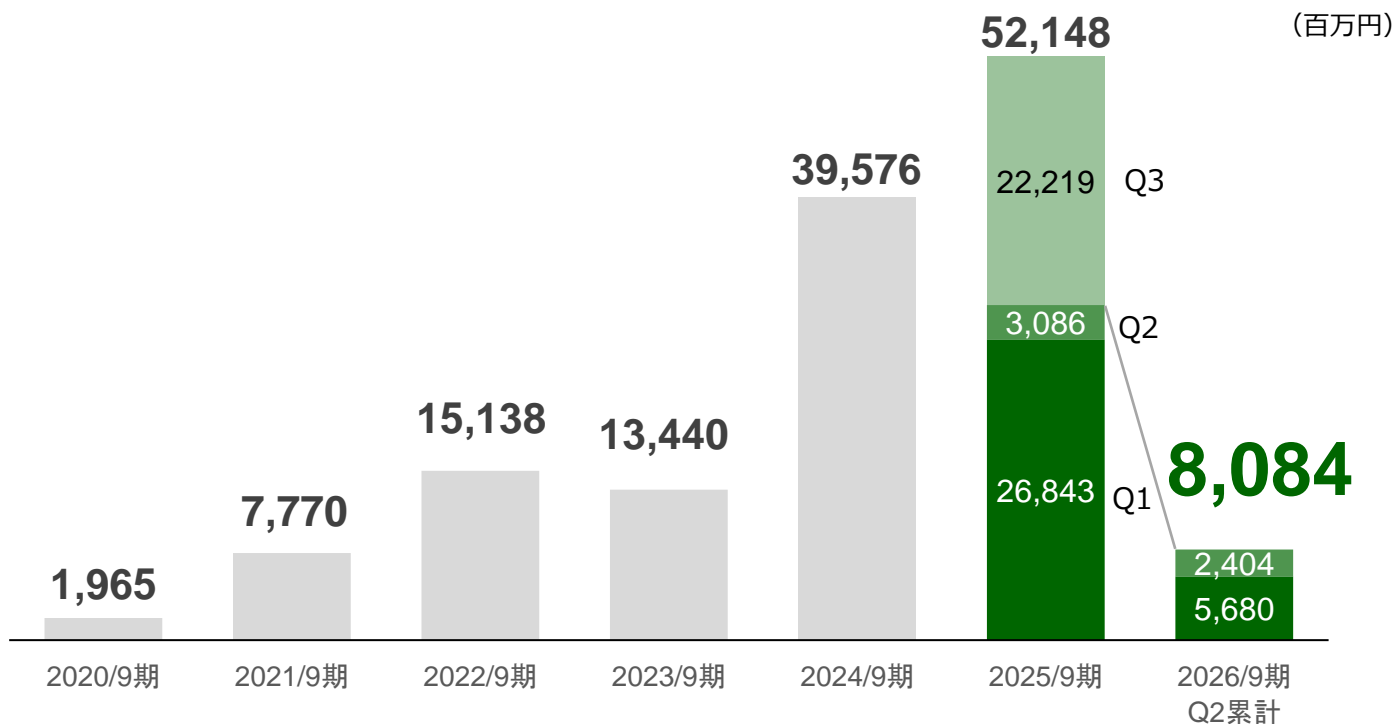
投資銀行 — PEファンドの事業承継案件への投資額

当第2四半期累計のPEファンド組成額（≒投資額）は80億円（前年同期比△73.0%）

第3四半期に入ってから、新たな大型案件を組成

- ・当第2四半期は3件、総額24億円を組成。中小案件の積み上げが進む。
- ・第3四半期に入ってから、大型案件を組成。当期中の投資回収を見込む。

PEファンド組成額



投資銀行 — 事業承継案件による収益

当第2四半期の売上高は14億円 第3四半期以降の売上高は、28億円を見込む

- ・ 前期に投資した大型案件について、第1四半期に一部を投資回収し、当第2四半期に回収を完了。
- ・ 第3四半期以降は、第2四半期までに組成した案件に加え、第3四半期に組成した大型案件の投資回収等により、28億円の売上高を見込む。

(億円)

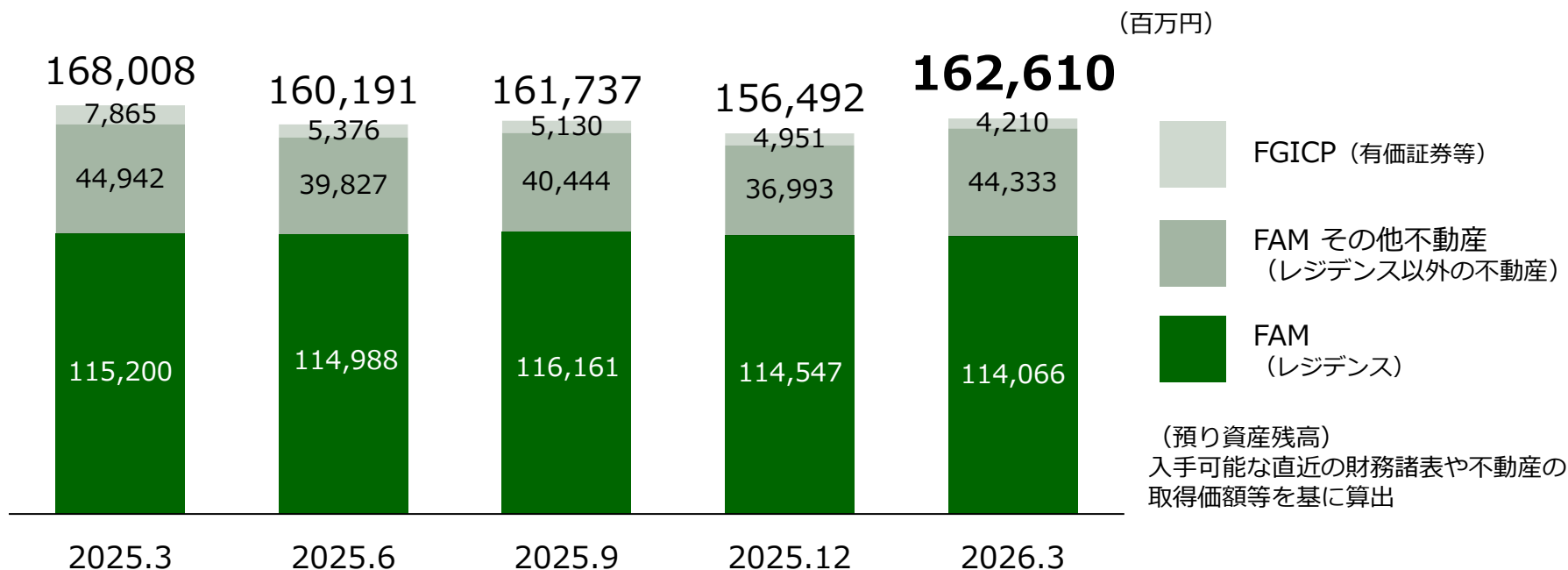
	売上高		
	25/9期 実績	26/9期 実績又は見込額 (26.2.12公表)	26/9期 実績又は見込額 (26.5.12公表)
第1四半期 (実績)	16	20	20
第2四半期 (実績)	9	—	14
第3四半期 (実績)	17	—	—
第4四半期 (実績)	9	—	—
第2～4四半期 (見込額)	—	6	—
第3～4四半期 (見込額)	—	—	28
通期 (実績又は見込額)	52	27	63

投資銀行 — 預り資産残高

預り資産残高は、第1四半期末比3.9%増の1,626億円

- レジデンス・・・不動産小口化商品のアセットマネジメントは、販売進捗に伴い受託残高が減少。
- その他不動産・・・事業承継案件で取り扱う不動産の新規受託や、前期に受託した太陽光発電所開発案件において、対象資産の取得が進んだことなどにより増加。

(注) 預り資産残高は、FAMの投資運用・投資助言とFGICPの投資運用における契約資産の合計です。



フィンテックアセットマネジメント(株) (FAM)

投資運用業、投資助言・代理業 (関東財務局長 (金商) 第2014号)
総合不動産投資顧問業 (総合第一74号)
不動産特定共同事業 (金融庁長官・国土交通大臣第54号)

FGIキャピタル・パートナーズ(株) (FGICP)

投資運用業、投資助言・代理業
(関東財務局長 (金商) 第2175号)

投資銀行 — トラックオペレーティングリース

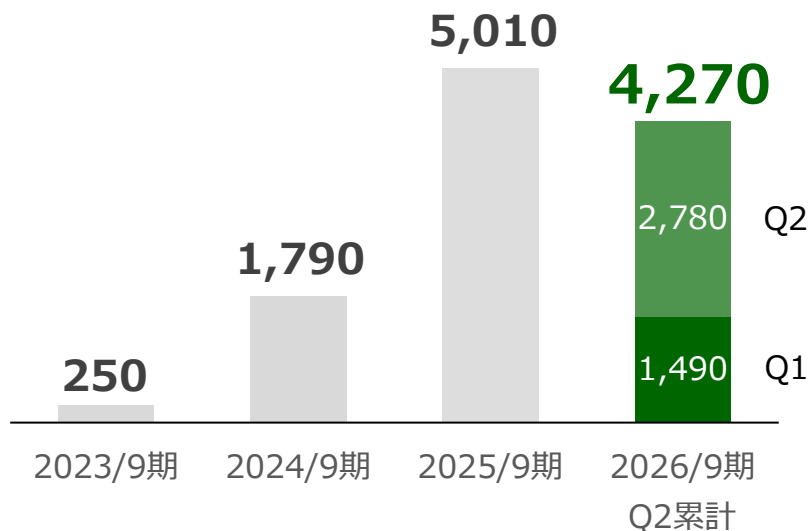
出資金販売額は第2四半期累計で4,270百万円となり、前年通期実績の85%に到達

- 運送会社等の増車需要や財務改善ニーズを背景に、中古商用大型車両等のリースバック需要は急速に拡大。これを受け、当社がアレンジするファンドの対象車両の確保は、順調に進捗。
- 投資商品を紹介するビジネスパートナーとの契約数が順調に増加し、投資家基盤の拡大に寄与。
- アレンジ等による当社グループの売上は、前第2四半期累計期間の2倍超となる。

出資金販売額の推移

累計販売額は100億円を超え113億円に

(百万円)



■ 事業内容

投資家資金により車両を保有・リースするファンドを当社グループがアレンジ・組成し、販売から運用、売却までを一気通貫で手がけ、組成・販売・運用・売却の各段階で収益を獲得する事業。

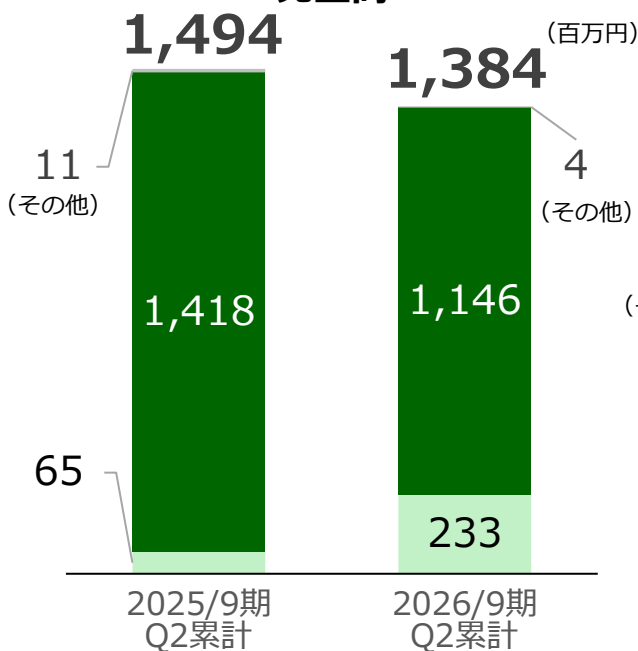
■ 投資商品の特徴

対象車両の法定耐用年数	4～5年
対象車両の経済的耐用年数	10～20年
対象車両のリース期間	3～4年
為替リスク	なし (円建て投資・円建て償還)
資金効率	投資期間中に元本の一部償還あり

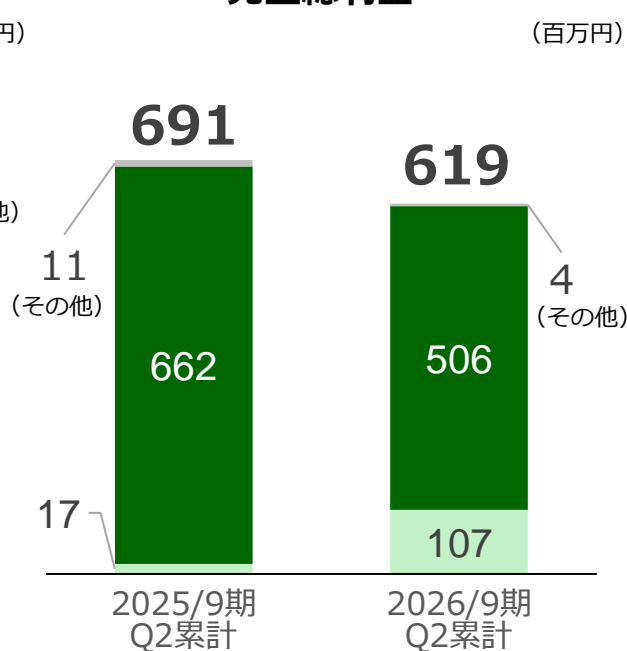
技術サービスの低調により減収減益 航空機リースは増収

- 技術サービス** 航空業界で航空機不足の環境が続き、リース機体返還時の検査による売上が減少。中東情勢に起因した航空燃料の不足や価格高騰が、航空会社の業績に悪影響を与えており、次期には、リース機体の返還の増加とともに、返還時の機体検査需要の増加が想定される。
- 航空機リース** 前期に積み上げた賃貸資産（当第2四半期末の簿価3,164百万円）によりリース収益が増加。第3四半期に新規取得及び売却を計画。

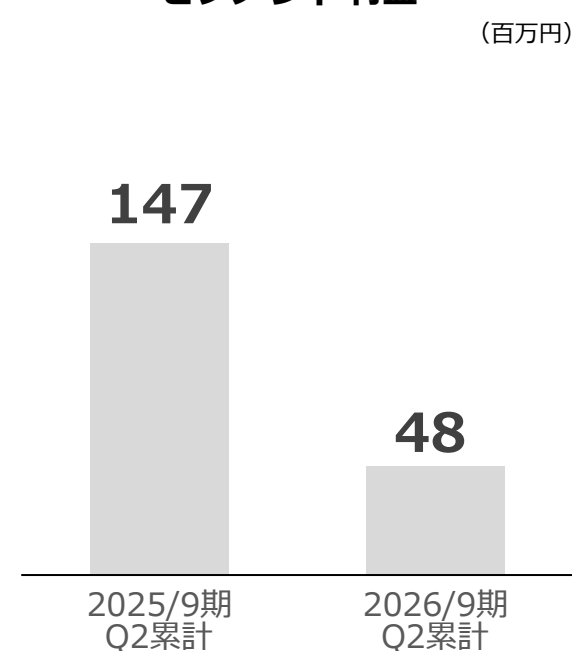
売上高



売上総利益



セグメント利益



110百万円減 (7.4%減)

72百万円減 (10.4%減)

99百万円減 (67.1%減)

技術サービス
 航空機リース
 その他

増収となったが、事業拡大に向けた先行投資により、損益は悪化

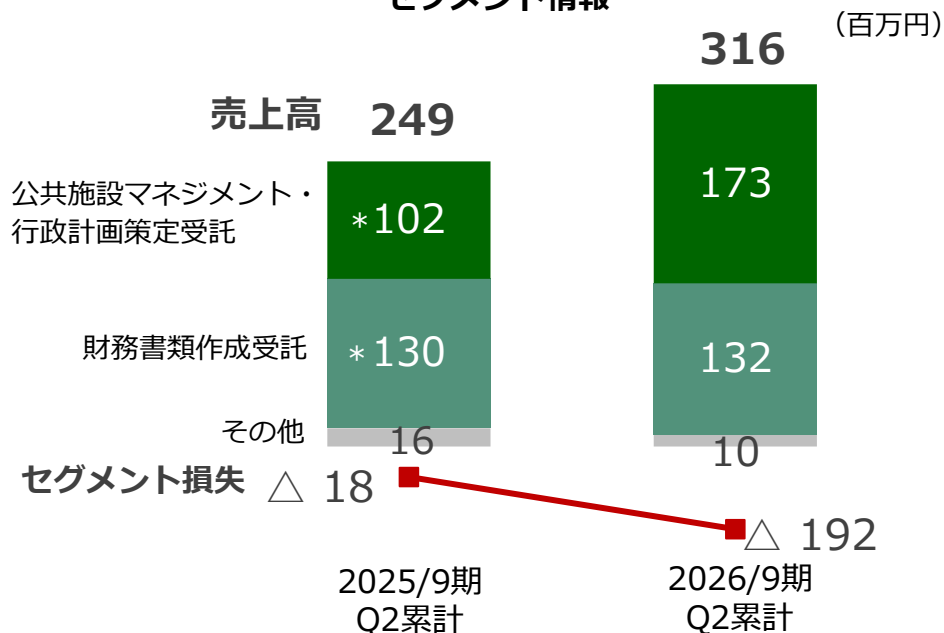
【財務書類作成、公共施設マネジメント・行政計画策定受託】

- ・財務書類作成、公共施設マネジメント・行政計画策定関連の売上はともに増加。
- ・公共施設マネジメントのアウトソーシング受託に向け、大規模自治体との協議を継続。受託開始に向けた一級建築士等の専門人材の採用により、人件費および採用費が増加。

【再生可能エネルギー施設の開発・運営】

- ・開発中の太陽光発電所10案件のうち、3件は2026年3月末、1件は4月に売電を開始し、1件は5月中に売電開始予定。
- ・残る5件は、5月に売電契約を締結。これにより、全案件において売電契約の締結が完了。
- ・当第2四半期は売電収入がない一方で、人件費等の先行投資負担が継続。

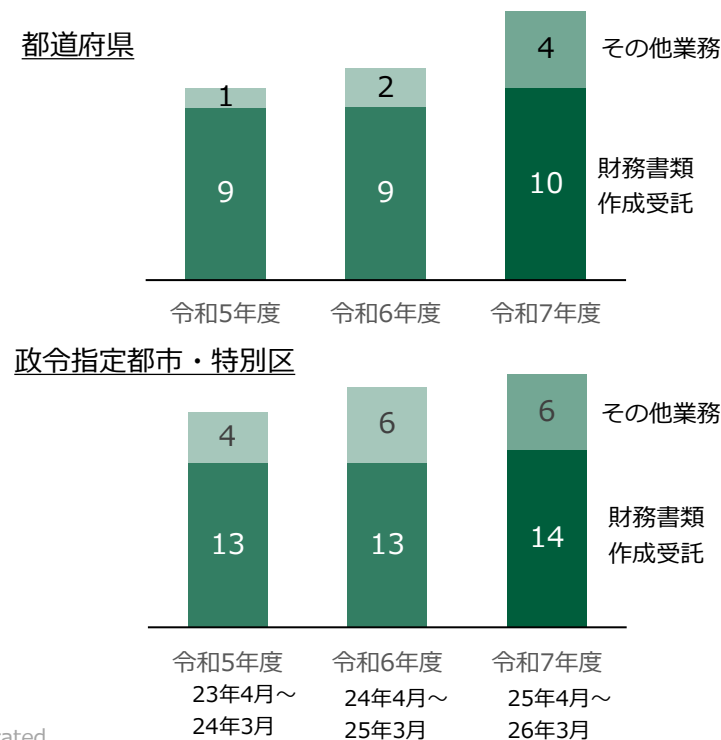
セグメント情報



(注) 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。

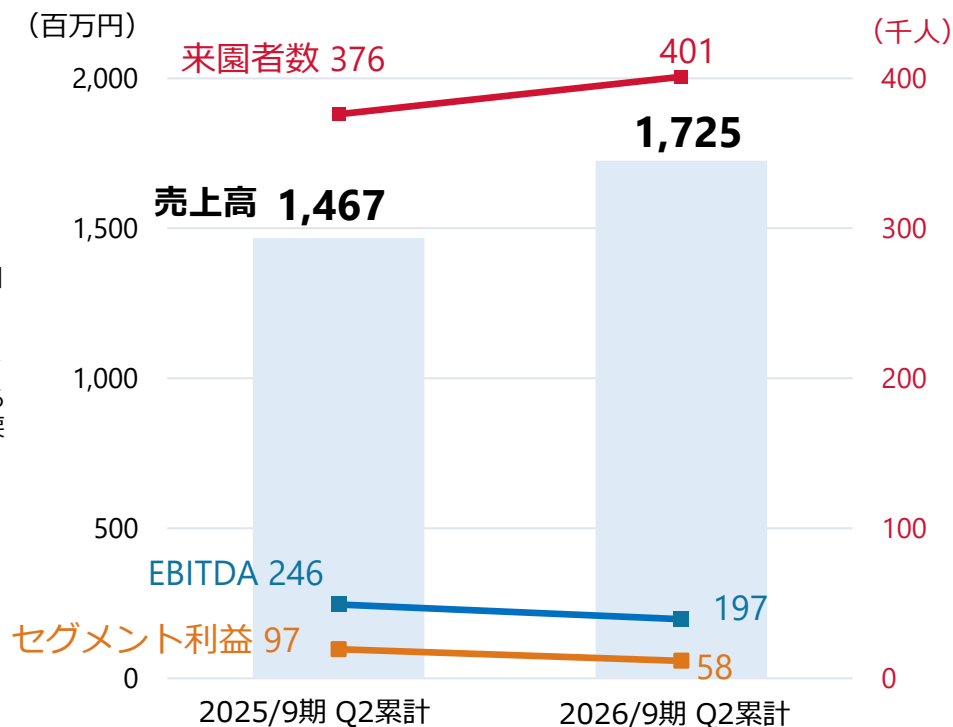
* 2025/5/9公表の2025年9月期第2四半期決算説明資料に誤りがあり、内訳を修正しています。

大規模自治体の受託団体数



イベント強化等による来園者の増加に加え、客単価が増加して増収となったものの、費用増により減益

- ・クリスマス・イベントや、スケートリンク設置、雪遊び体験などを多彩な集客策を展開。
2/28-4/5に毎年恒例のこども応援キャンペーンを実施。メッツア来園者数は前Q2累計比6.8%増の40.1万人。
- ・物販の客単価向上もあり、売上高は前Q2累計比17.6%増の1,725百万円。
- ・費用面では、人件費・イベント経費に加え、無料バス運行費・ハイパーミュージアム飯能の運営費が増加した結果、セグメント利益は前Q2累計比40.4%減の58百万円。
- ・3/14、エンマの劇場が大型テントを備えた全天候型シアターとしてリニューアルオープン。
(当社が外部から賃借したテント、映像・音響設備等を、(株)ムーミン物語に転リース)

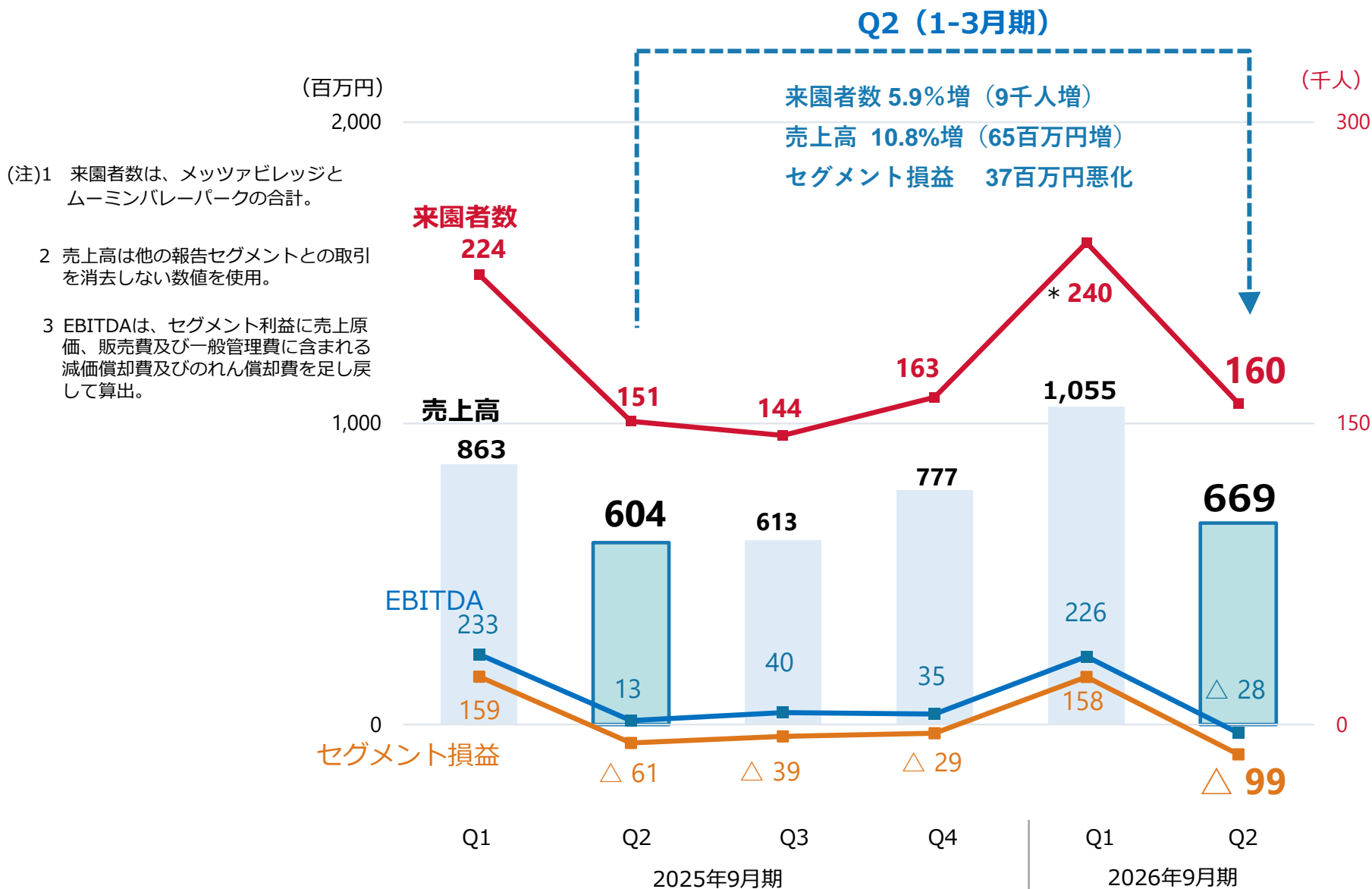


(注)1 来園者数は、メッツアビレッジとムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

エンタテインメント・サービス（四半期業績推移）



* 2026/2/12公表の第1四半期決算説明資料に誤りがあり、Q1来園者数を修正しています。

連結貸借対照表

資産の部

25年9月期 26年9月期 増減

第2四半期

増減

	25年9月期	26年9月期 第2四半期	増減
流動資産	15,597,859	19,212,130	3,614,271
現金及び預金	6,632,789	8,450,827	1,818,037
受取手形・売掛金・契約資産	1,532,846	2,346,442	813,596
1 営業投資有価証券	830,199	2,696,963	1,866,763
営業貸付金	569,765	411,865	△ 157,900
販売用不動産	4,102,649	4,419,268	316,619
商品	139,147	8,205	△ 130,941
その他	1,902,681	1,198,356	△ 704,324
貸倒引当金	△ 112,220	△ 319,799	△ 207,579
固定資産	11,396,270	7,750,649	△ 3,645,620
有形固定資産	9,029,277	5,230,601	△ 3,798,676
2 建物・構築物（純額）	4,032,705	152,344	△ 3,880,361
工具・器具・備品（純額）	235,913	178,294	△ 57,619
賃貸資産（純額）	3,244,507	3,164,166	△ 80,340
2 土地	747,995	337,835	△ 410,160
3 建設仮勘定	500,790	998,838	498,047
その他（純額）	267,365	399,121	131,756
無形固定資産	135,324	189,812	54,487
投資その他の資産	2,231,667	2,330,236	98,568
資産合計	26,994,129	26,962,780	△ 31,349

1 事業承継案件への投資、子会社株式の取得、連結SPCが取得した不動産の信託受益権化により増加。

2 ムーミン物語、地域SPCの連結除外等により、ムーミンバレーパークの土地・建物が減少。

3 太陽光発電所開発PJの進捗により増加。
(10案件中3案件は完工し、「その他（純額）」（機械装置）に振替)

4 地域SPCの連結除外により減少。

5 運転資金及び信託会社の買収資金のための借入、並びに不動産保有SPCの連結により増加。

6 (株)ムーミン物語の連結除外により減少。

負債の部

25年9月期 26年9月期 増減

第2四半期

(単位：千円)

増減

	25年9月期	26年9月期 第2四半期	増減
流動負債	12,240,207	6,853,565	△ 5,386,642
支払手形・買掛金	330,693	509,907	179,213
短期借入金	3,414,679	3,301,195	△ 113,483
1年内償還予定の社債	100,000	196,000	96,000
4 1年内返済予定の長期借入金	5,960,439	928,964	△ 5,031,475
未払法人税等	205,333	248,169	42,836
リース債務	30,052	70,651	40,599
賞与引当金	382,987	264,863	△ 118,123
その他	1,816,022	1,333,813	△ 482,209
固定負債	2,711,747	5,541,913	2,830,165
社債	100,000	254,000	154,000
5 長期借入金	2,068,376	4,415,854	2,347,477
リース債務	28,445	294,531	266,085
繰延税金負債	17,218	29,188	11,970
退職給付に係る負債	203,126	206,660	3,533
その他	294,580	341,678	47,098
負債合計	14,951,955	12,395,478	△ 2,556,476

純資産の部

株主資本	10,737,368	13,350,128	2,612,759
資本金	5,373,336	5,373,336	—
資本剰余金	969,796	993,488	23,692
利益剰余金	5,301,178	7,870,273	2,569,094
自己株式	△ 906,942	△ 886,970	19,972
その他の包括利益累計額	132,349	294,619	162,270
新株予約権	98,259	102,861	4,601
6 非支配株主持分	1,074,196	819,692	△ 254,503
純資産合計	12,042,174	14,567,301	2,525,127
負債純資産合計	26,994,129	26,962,780	△ 31,349

連結損益計算書

	2025年9月期 第2四半期		2026年9月期 第2四半期		(単位：千円)	
		売上比		売上比	増減額	増減率
売上高	6,797,033	100.0%	8,011,122	100.0%	1,214,089	17.9%
売上原価	1 2,502,500	36.8%	2,404,420	30.0%	△ 98,079	△ 3.9%
売上総利益	4,294,532	63.2%	5,606,702	70.0%	1,312,169	30.6%
販売費及び一般管理費	2 2,534,568	37.3%	3,053,592	38.1%	519,023	20.5%
営業利益	1,759,964	25.9%	2,553,110	31.9%	793,145	45.1%
営業外収益	57,185	0.8%	49,688	0.6%	△ 7,497	△ 13.1%
営業外費用	3 105,354	1.5%	244,767	3.1%	139,412	132.3%
経常利益	1,711,796	25.2%	2,358,031	29.4%	646,234	37.8%
特別利益	8,162	0.1%	1,556,309	19.4%	1,548,147	—
特別損失	4 —	—	463,884	5.8%	463,884	—
税金等調整前中間純利益	1,719,958	25.3%	3,450,456	43.1%	1,730,498	100.6%
法人税等合計	294,147	4.3%	244,751	3.1%	△ 49,396	△ 16.8%
中間純利益	1,425,810	21.0%	3,205,704	40.0%	1,779,894	124.8%
非支配株主に帰属する中間純利益	5 134,672	2.0%	13,324	0.2%	△ 121,347	△ 90.1%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,291,137	19.0%	3,192,380	39.8%	1,901,242	147.3%

1 エンタテインメント・サービスにおいて、増収に伴い仕入高等が増加したほか、イベント経費の増加やハイパーミュージアム飯能（2025年3月開業）運営費の発生があったが、前Q2に計上したメッツアビレッジの一部施設改装に伴う除去損200百万円の影響がなくなり減少。

2 給与水準の引き上げや人員増強、オフィス増床により、人件費・地代家賃などの固定費が増加。事業拡大に伴い諸経費も増加。

3 借入金の増加に伴い支払利息や支払手数料が増加。

4 ムーミン物語の株式譲渡に伴い、関係会社株式売却損263百万円を計上。
ムーミン物語及び飯能地域資源利活用合同会社の連結除外により、両社への債権に対して貸倒引当金繰入額200百万円を計上。

5 ムーミン物語及び地域SPCの連結除外により減少。

連結キャッシュ・フロー計算書

成長投資を積極的に推進した結果、フリーキャッシュフローは△594百万円
必要資金は金融機関借入を活用して機動的に確保

(単位：千円)

	25/9期Q2累計	26/9期Q2累計	増減額		25/9期Q2累計	26/9期Q2累計	増減額
営業CF	△781,302	1 739,958	1,521,261	財務CF	1,730,525	3 2,333,936	603,411
税引前中間純利益	1,719,958	3,450,456	1,730,498	短期借入金の増減	2,451,599	△113,483	△2,565,083
減価償却費	224,246	282,870	58,624	長期借入れによる収入	412,000	3,638,507	3,226,507
支払利息	65,820	143,439	77,619	長期借入金の返済	△281,824	△681,145	△399,321
有形固定資産売却損益	—	① △1,556,309	△1,556,309	社債発行による収入	—	300,000	300,000
売上債権の増減	△878,902	△642,996	235,906	社債償還による支出	—	△50,000	△50,000
営業投資有価証券の増減	△722,525	② △1,827,550	△1,105,025	配当金の支払	△273,276	△540,806	△267,529
営業貸付金の増減	96,900	157,900	61,000	自己株式の取得	△299,994	△48,205	251,788
棚卸資産の増減	△165,709	△281,041	△115,331	非支配株主への配当金支払	△252,319	△147,967	104,352
仕入債務の増減	90,768	216,362	125,594	その他	△25,658	△22,961	2,696
未収入金の増減	—	367,187	367,187				
賃貸資産取得支出	△853,453	△478,269	375,183	現金等の換算差額	△52,889	78,565	131,454
その他	△358,404	907,908	1,266,313	現金等の増減額	△185,546	1,817,942	2,003,489
投資CF	△1,081,880	2 △1,334,518	△252,637	現金等の期首残高	5,674,906	6,442,667	767,761
投資有価証券取得支出	△502,465	△56,026	446,439	現金等の中間期末残高	5,489,359	8,260,610	2,771,250
固定資産取得支出	△125,499	△829,830	△704,330				
短期貸付金の増減額	△400,000	—	400,000				
連結範囲変更を伴う 子会社株式取得による支出	—	△45,770	△45,770				
連結範囲変更を伴う 子会社株式売却による支出	—	△398,841	△398,841				
その他	△53,915	△4,049	49,865				

営業CF・・・中間純利益は高水準となったが、不動産売却益の控除や連結SPCの不動産取得により、プラス幅は限定的となった。

- ① 有形固定資産売却損益・・・地域SPCへの不動産譲渡を売却処理したことにより発生した売却益をマイナス調整。
- ② 営業投資有価証券の増加・・・事業承継案件への新規投資に加え、連結SPCが取得した不動産の信託受益権化により増加。

投資CF・・・太陽光発電所開発やムーミンバレーパークの設備投資の他、ムーミン物語等の連結除外に伴う現預金の減少により、投資CFはマイナス。地域SPCへの不動産譲渡は収益認識したが、売却代金は2017年に受領済のため固定資産売却収入は発生せず。

財務CF・・・運転資金及び信託会社の買収資金の借入、不動産保有SPCの新規連結等により長期借入金が増加し、財務CFはプラス。

Appendix

連結経営指標等の推移

		2021年 9月期	2022年 9月期	2023年 9月期	2024年 9月期	2025年 9月期	2026年9月期 第2四半期累計
売上高	(百万円)	8,107	9,301	9,302	13,807	14,432	8,011
売上総利益	(百万円)	3,370	3,990	5,111	7,355	8,869	5,606
営業利益	(百万円)	178	587	1,343	2,569	3,406	2,553
経常利益	(百万円)	115	540	1,277	2,461	3,242	2,358
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	130	176	1,603	1,675	2,121	3,192
純資産	(百万円)	7,439	7,842	9,393	10,752	12,042	14,567
総資産	(百万円)	16,457	17,933	19,123	20,669	26,994	26,962
1株当たり純資産	(円)	31.47	32.72	41.19	48.66	56.53	70.87
1株当たり当期純利益	(円)	0.65	0.88	7.97	8.41	10.91	16.61
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	0.65	0.87	7.94	8.36	10.83	16.49
自己資本比率	(%)	38.5	36.7	43.4	46.1	40.3	50.6
自己資本利益率	(%)	2.1	2.7	21.6	18.8	20.8	-
株価収益率	(倍)	86.1	44.6	7.7	8.7	10.7	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	747	△ 701	615	4,055	△ 664	739
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 173	△ 141	766	△ 547	△ 1,590	△ 1,334
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 360	802	△ 538	△ 790	3,130	2,333
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,379	2,375	2,868	5,674	6,442	8,260
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	149(209)	176(144)	153(169)	168(200)	220(219)	155(224)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	28(4)	30(4)	26(6)	48(7)	65(10)	55(13)

連結従業員数の推移（四半期、セグメント別）

(人)

報告セグメント	2025年9月期				2026年9月期	
	Q1末	Q2末	Q3末	Q4末	Q1末	Q2末
投資銀行	47	45	52	54	52	51
投資銀行－航空機部門	33	32	31	31	31	30
パブリックサポートサービス	17	17	17	33	38	37
エンタテインメント・サービス	55	60	71	70	70	8
全社（共通）	26	28	31	32	30	29
合計	178	182	202	220	221	155

- (注) 1. 全社（共通）は、特定のセグメントに区分できない当社の管理部門の従業員数です。
 2. 2026年9月期第1四半期より報告セグメントを変更しており、2025年9月期の人員数は変更後のセグメント区分に基づいています。

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長 玉井 信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所 スタンダード市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行業務 ②投資業務 ③投資運用業務 ④地域課題ソリューション
発行済株式総数	201,321,700株 (2026年3月31日現在)
単元株式数	100株
資本金	5,373百万円 (2026年3月31日現在)
連結純資産	14,567百万円 (2026年3月31日現在)
連結従業員数	155名 (2026年3月31日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

FGIグループ会社・セグメント

(主な連結子会社・関連会社を抜粋)

(2026年4月末現在)

投資銀行

FGI

フィンテック グローバル(株)
投資、アレンジ
(9月決算)

50.1%

100%



(株)トリニティジャパン
リスク・ヘッジの手配支援
(6月決算)

FAM

フィンテック
アセットマネジメント(株)
不動産投資運用
(9月決算)

FGICP

FGIキャピタル・
パートナーズ(株)
有価証券等の運用
(9月決算)

FGITR

フィンテック
グローバル信託(株) *
信託、不動産仲介
(3月決算)



コネクトテック(株)
不動産開発、売買、仲介等
(9月決算)

投資銀行ー 航空機部門

100%



ac
aviner(株)
航空、エネルギー分野の
AM/事業投資
(9月決算)

53.6%

SGI-Group B.V.
持株会社
(6月決算)

100%



SGI-Aviation Services B.V.
航空機アセットマネジメント
(6月決算)

パブリック サポートサービス

95.0%

100%

34.0%



(株)パブリック・マネジメント
・コンサルティング
公会計/公共施設マネジメント受託
(9月決算)



パブリック電力
(株)パブリック電力
再エネ発電所の開発、発電、
売電及び施設運営
(9月決算)



(株)ジオプラン・ナムテック
インフラ・ユーティリティ等の
情報処理システムの計画、運営等
(3月決算)
(持分法適用関連会社)

エンタテインメント・ サービス

* 2026/3/26に(株)ムーミン物語株式を一部譲渡したため、(株)ムーミン物語及び飯能地域資源活用合同会社を、2026年9月期第2四半期から連結除外しています。

* メッツアビレッジのイベント企画・運営等の業務委託先を、2026/4/1より(株)メッツアから(株)ムーミン物語に変更しています。

* 2026/1/20に子会社化。
みなし取得日を2026/3/31
としたため、26/9期Q2は
貸借対照表のみ連結。

免責事項

本資料は、当社およびFGIグループの2026年9月期第2四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。